

Hop Step Jump

12

初任者研修第 10 回 人権について考える②

今回は大阪人権博物館（リバティおおさか）での研修でした。「人権とは何か？」という問いに対して、展示見学と班別交流を通じて向き合いました。

とても幅広い人権資料がたくさんあって驚きました。普段、授業をしていて、人権を意識することが少ないなと反省しました。班で話し合いをしていて、学校内でも人権が守られていないことが多々あると気づきました、「無知がいじめになる」ということが実感できました。

「知ること」は重要なキーワードです。

展示を見て、水俣病や DV、文化や伝統など聞いたことがあることや本で読んだことがあるものがたくさんあり、いろいろな所に人権があふれているんだな～と感じました。逆に言うと、それだけ大切であり、人権を尊重したり、守らなければいけなかったり、私も含めみんなが持たなければいけない意識だと思いました。私が印象に残っているのは「いじめ」です。彼らの経験から得た心の叫びが心に残りました。生きる私たちに託された使命のような気がします。また、「知った者の責任」というグループからの発表も残っています。子どもに返していきたいと思います。

「知った者の責任」

学校現場で人権についてよく聞く内容と言え、いじめ問題や部落差別についてでした。展示見学をする中で、人権問題は生まれる前、成長後の病気など様々な要因から起こるものであると感じました。また、自分のクラスの児童があたり前のように授業を受けられることも、人権であると自覚することができました。児童に与えられた権利を、教師は一層豊かなものにしていけるべきであると考えました。

「児童に与えられた権利」？権利とは誰かから与えられるものでしょうか？人権とは与えられたり、制限できたりするもの？？

パジチョゴリを初めて着させてもらいました。チマチョゴリは今まで聞いたことはありませんが…。説明してくださる方と話させてもらっていて「文化が消えつつある」とおっしゃっていて、意識していませんでした。また研修の後半で、大人が空気を作って子どもが吸うと聞いて反省しました。クラスであたたかい空気を作ろうと思いました。

男女差別や性的少数者の展示を見て、自分の中に無意識の「差別」の心が少なからずあるということに気づきました。分かっているけどどこかで違和感を持ったり「女の人が消防士」というのを見て「おー」と感じたりすることはやはりそういう潜在意識があるわけで、最近になって同性愛や男の人の育休などが世間に広まりだしてもどこかで「差別」にぶつかってしまうなと改めて思います。また、いじめの展示では、生々しいまでにその状況が分かるような遺書があり、「辛さ」と「怖さ」が感じられました。教師として向き合っていかなければいけない問題だと思います。

文化、習慣、考え方。自分の中にしみ込んだ感覚を問い直す。自分は当たり前と感じていることも、誰かの生きにくさにつながっているかもしれない。

資料がとても多く、一つひとつのコーナーで知らなかったことを新たに知ることができました、今度はもう少しゆっくりと見学しようと思います。子ども同士に人権について指導するだけでなく、自分自身の言動を見直し、人権について考えようと思います。

まだまだ知らないことが多いなと思いました。今日知ったことや学んだことは、日々の生活、授業の中で活かせたらいいと思います。生徒に教えるのではなく、一緒に考えようという風にやっていきたいと思います。

日々の授業が、人権教育の実践の場です。自分自身の人権感覚を見つめ、問い続けなくてはならないなと改めて感じました。ヒューライツ大阪の Web などでも参考になります。検索してみてください。